

第1学年 総合的な探究の時間～11月～

ねらい：経済の循環について知ろう！

本日のTODO～RESASを活用～

- ① 経済学の視点から龍ヶ崎市を調べてみよう。
- ② 龍ヶ崎市で給付金を使ってもらうためのルールとは？

ただ給付金を配ればいいってわけじゃない！？

前回の探究では、龍ヶ崎市の職員の方から講義を受け、様々な若者支援策（給付金を中心）があることを知りました。その際、「給付金を出す」等の支援策が挙げられましたが、本当にそれで支援になるのでしょうか。そのような批判的思考力を持てるよう、今回は、一步踏み込んで”最大限効果を発揮するためにはどうしたら良いか”を考える時間としました。

まず経済学の視点（生産・分配・消費）から龍ヶ崎市を調べてみると、龍ヶ崎市は他の市町村から”お金を儲けている”ことがRESASから読み取れました。

そのうえで、給付金を受け取った市民が、龍ヶ崎市内で使ってもらうにはどんなルール作りをしたら良いか考えました。

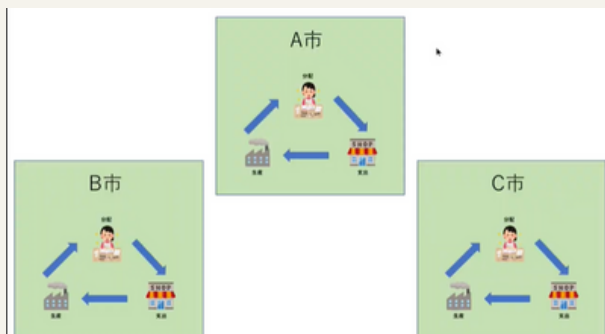
生徒からは「実際に龍ヶ崎市が施策として実施している「プレミアム付き商品券」の目的を理解することができた！」という感想も聞かれました。

興味が湧いた人は、経済学や行動心理学を大学等で学んでみては…？



余ったリンゴの皮でジャムを作るのも経済学！！

一般的：もったいないから
会社：廃棄にお金がかかるから



市民に対して渡す給付金を地元で使ってもらうために、市役所は市民に対してどんなことが出来るかな？給付金の仕組みを考えてみよう。



生徒の感想

ただ（給付金は）配るだけでなく、ちゃんと考えられているサービスだと思った。また、龍ヶ崎市は外からのお金がたくさん入っていることに驚いた。ちゃんと他の企業とつながっている会社では、使えないor制限があることを知って、以前では考えたこともないことをしれて、頭が良くなった気がした。

経済学って難しそうだけど、身近な例から考えると面白い！